

みんなのひろば



▲236人の選手が、流れるプールを泳ぎ遊園地内を走った「アクアスロン大会」。最高齢の81歳の選手がゴールするときには、先にゴールした小学生が駆けつけ健闘をたたえました。
7月11日(土)／西武園ゆうえんち
(撮影：市民カメラマン・八木豪彦)



▲アマチュアバンドによるおなじみのハワイアンソングと、吾妻フラチームの優しく穏やかなフラダンスで、ゆったりとしたひと時を過ごした「第18回ハワイアンフェスティバル」。
7月5日(日)／吾妻公民館
(撮影：市民カメラマン・佐藤清一郎)



▲北は北海道、南は沖縄から参加者が集った「ツイスターズ2009inとほろざわ」。個性豊かなパフォーマンスコンテストや風船とは思えない細工を施したコスチュームコンテスト等が行われました。すべて風船で出来ているのには驚きました。
7月4日(土)・5日(日)／ミューズ・小ホール、展示室
(撮影：市民カメラマン・伊藤藤紀子)



▲彩翔亭の茶室で行われた「子どもたちの七夕茶会」。子どもたちは、七夕飾りを楽しんだり、茶道の基本を学んだりしました。
7月11日(土)／彩翔亭(所沢航空記念公園内)
(撮影：市民カメラマン・箕輪香里)



自転車は環境にも健康にもやさしい乗り物です

盛夏を迎えました。市内の観光ぶどう園で旬のぶどうを味わったり、狭山湖で夕涼みを楽しんだりするのはいかがですか。せつかくなので、まわりの景色を楽しみながら、自転車で移動してみよう。

◆自転車は環境にやさしい乗り物
車を動かすためには、ガソリンを燃焼することなどで得られる多くのエネルギーが必要です。一方、自転車は運転する人の力で動かすことができます。自転車は、化石燃料を燃やす必要がない、環境にやさしい乗り物なのです。

◆自転車は健康の増進に役立つ
自転車に乗って風を受けることで、体温の上昇を抑えつつ、長距離を移動することができます。さまざまな景色を楽しむこともできます。日ごろの運動不足の解消だけでなく、心もスッキリすることでしょう。

◆所沢の旬を味わおう
市内には手軽に楽しめる観光農園があります。特に、初夏から秋にかけては、さまざまな果物が収穫できます。自転車で出かけ所沢の旬を味わってみてはいかがでしょうか？また、食糧を運ぶエネルギーを減らすため、所沢産の農産物を選びましょう。市内の観光農園は所沢市観光協会事務局 ☎2998-9155 (市役所2階商工労政課内) のホームページ <http://www.tokoro-kankou.jp/> でご覧になれます。

◎自転車は軽車両です。法令を遵守のうえ安全な運転を心がけましょう。また、自転車で移動の際は、熱中症に注意しましょう。(熱中症予防は本号16ページ「いきいき健康づくり」を参照)

問い合わせ 環境総務課 ☎2998-9133 ・ FAX2998-9394
エコ・モビリティとは、環境にやさしい移動の仕方を意味する造語です。



皆さんからの写真や投稿をお待ちしています!

▶「みんなの広場」では、エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント(約60字)を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『田舎』▶文章は添削あり▶締め切りは8月6日(日)必着▶掲載者には記念品を進呈
◎いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501並木1-1-1所沢市役所広報課「みんなの広場」係へ郵送またはEメール(アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp)でご応募ください。

夏野菜の代表格のひとつ「きゅうり」。今、家庭菜園で毎日7〜8本は獲れる。浅漬け、ぬか漬け、キムチ漬け、ポテトサラダ、マカロニサラダ等のサラダ類はもちろんだと、サンドイッチの具、パンハンジー、ハムや春雨、くらげ・もやし・カニ缶とあえたり、きゅうりもみしただり、毎日きゅうり責めです。
ほっとけば、おかけのような大きさになるので、せっせと収穫するが、3人家族なので、成長する速さに食べる速さが追いつかない。
スーパーできゅうりを手にしている人を見ると、声を掛けて差し上げたくなる。しばらく、きゅうりに追いつけられない夢を見ました。

かんす

本郷 平野 信子



はとろざわ 野老っ子



子どもたちを取り巻く環境が目まぐるしく変化するなか、地域の子どもたちを見守り育てる実践が目まぐるしく行われています。今回は、小学校を中心とした地域のネットワーク組織『せいしんネット』の会長として活躍の岸正次さんをご紹介します。『せいしんネット』は、言わば学校応援団。平成14年に学校が完全週5日制に移行するのをきっかけに、週末の子どもたちの居場所づくりを目指して、地域と学校が一体となってスタートしました。
会長を務める岸さんは、昭和47年に市内の西所沢からけやき台に引っ越してきました。「そのころは仕事人間で、地域とかかわりは薄かった」と当時を振り返ります。しかし、町内の防犯や衛生活動などの役割を引き受けてからは、町内会活動にかかわるようになり「大変だったこともあるが、人とのつながりが広がって楽しくやれた」と岸さんは話します。
現在『せいしんネット』は、放課後の子どもたちの安全・安心な居場所づくりとして市が取り組んでいる「ほうかごところ」

あいさつのできる元気な地域に

岸 正次さん (けやき台在住)

の運営主体にもなっています。また、地域の人とのつながり、ミニテニスやバドミントン、将棋など幅広い活動が行われており、岸さん自らも、習字や工作の指導者として活躍し、子どもたちの将棋の相手になることもしばしばです。
岸さんは、「多くの方の協力が大切だからこそ、人が嫌な思いをしないように、言動にはいつも気を付けている」と気遣いと人とのつながりを大事にする気持ちを忘れません。
そんな岸さんは学校でも有名。「岸さんこんにちは!岸さんさようなら!」と学校を出ても子どもたちが声をかけます。「あいさつが普通に行える地域にしていくには、大人も頑張らなきゃいけない」と話してくれました。
『せいしんネット』の取り組みをきっかけに「こんにちは!さようなら!とあいさつが響く地域へ広がれば」と岸さんは期待を寄せています。あいさつは、人と人、そして地域をつなぎます。



▲「ほうかごところ」で将棋をする岸さん

夏野菜 並木 横須賀 みどり
お父さん「そら豆」は「大豆」って書くんだね。帰省したときに、「一緒にそら豆を摘みながら私が「ジャックと豆の木」の話をすると、ほう、そうか」と一瞬だけ手を休めて空を見上げていましたね。次の夏を迎えることも本当に空高くのぼっていったお父さん。みんなが集まったとき、お父さんの「そら豆」の話が自然にできて、近くに住んでいないけど「そら豆」のおかげで心がひとつになった気がしました。帰りの機内から見た雲海はそら豆のフカフカベツトみたいな見えて涙がすすんでしまいました。

誰でもエッセイ
テーマ「夏野菜」

市民農園

中新井 小野寺 智子

歴史再発見 とほろざわの文化財
旭橋
市内御幸町に所在する旭橋は、フルマン通り交差点から航空記念公園へ向かう飛行機新道の途中、東川に架けられた橋です。明治44年(1911)所沢に日本初めての飛行場が開設された際、鉄道で運ばれてきた飛行機を所沢駅から輸送するために造られました。初代の橋は土橋でしたが、現存する鉄筋コンクリート製の2代目旭橋は、昭和5年(1930)に竣工しました。赤御影石が使用された親柱には、西洋風の彫刻が施され、欄干はリスミカルな白タイル貼りの連続アーチで飾られています。西洋建築の様式が随所に取り入れられているのが、この橋の特徴でもあります。
現在は「百年に一度の経済危機」といわれていますが、旭橋が造られた昭和5年は、昭和恐慌と呼ばれるまさに経済危機の最中でした。このような状況下にあつて、当時としては極めて斬新なデザインを施した旭橋には、空の都の表玄関にふさわしい橋をとの関係者の思いや意気込みが伝わってきます。
所沢飛行場の記憶をとどめる数少ない遺構として、旭橋は79年の歴史を刻み、所沢がたどった近代化の歴史を今に伝えています。
問い合わせ 文化財保護課 ☎2998-9203 ・ FAX2998-9128

